

# 開催案内

## マンスリーセミナー

407	4/18 (火)	シリコンフォトニクス技術を用いた ボード間/LSI間超小型光トランシーバ	技術研究組合 光電子融合基盤技術研究所 研究統括部長 中村 隆宏 氏
(内容) シリコンフォトニクスは、シリコンの高屈折率差による強い光閉じ込めにより小型・低消費電力化が期待されること、並びに、LSI-CMOS ラインを用いて製造可能で、低コスト化が期待されることで、光トランシーバへの導入が進められている。本講演では、これらのシリコンフォトニクスの利点と実装技術により超小型化した光トランシーバである光 I/O コアについて報告する。また、光 I/O コアの応用先の 1 つであるボード間/LSI 間への適用についても紹介する。			
408	5/16 (火)	長距離大容量光通信システムを支える 極低損失光ファイバ技術	住友電気工業株式会社 光通信研究所 主席 山本 義典 氏
(内容) 大洋横断海底光ケーブルなどに代表される長距離大容量光伝送システムにおいては、光ファイバには低い伝送損失および低い非線形性(大きな実効断面積)が強く求められており、今日までに伝送損失 0.15dB/km 以下、実効断面積 130 $\mu\text{m}^2$ 以上の極低損失光ファイバが実用化されている。本講演では、光ファイバの低損失化の歴史を振り返るとともに、最新の極低損失光ファイバ技術を概説する。さらに、光ファイバの低損失化と低非線形性による長距離大容量伝送システムの性能改善への寄与についても述べる。			
409	6/20 (火)	集積回路技術がもたらす テラヘルツ技術の変革	大阪大学大学院 基礎工学研究科 システム創成専攻 教授 永妻 忠夫 氏
(内容) 1990 年代にはじまる、テラヘルツ (THz) 波の研究開発のブレイクは、フェムト秒パルスレーザを利用した THz 波の発生と検出技術によりもたらされ、分光やイメージング技術の実用化に繋がった。およそ四半世紀が経過した今日、THz 技術は産業化に向けた新たなフェーズに入りつつある。本講演では、それを象徴する重要な技術トレンドである、「半導体集積回路技術を導入した THz 基盤技術」の動向と、その通信やセンシングシステム応用への展望について述べる。			

最新情報は光産業技術振興協会のマンスリーセミナーのページをご覧ください。

会場：光産業技術振興協会 (有楽町線 江戸川橋駅 3 番出口)  
東京都文京区関口 1-20-10 住友江戸川橋駅前ビル 7 階  
時間：午後 3 時 30 分～5 時 30 分  
定員：60 名 (申込先着順)  
<http://www.oitda.or.jp/main/monthly-j.html>

参加料：協会賛助会員：1,500 円 (1 回につき・消費税込)  
一般参加：3,000 円 (1 回につき・消費税込)  
申込先：光産業技術振興協会 開発部 間瀬  
TEL：(03)5225-6431 FAX：(03)5225-6435  
E-mail：mly@oitda.or.jp